

平成 27 年北栄町議会議員研修報告書

1、日 時	平成 27 年 10 月 27 日～29 日 2 泊 3 日
2 調 査 地	鳥取県八頭町 大阪府柏原市 大阪府泉南市 京都府綾部市 兵庫県香美町
3 調査内容	<p>6 次産業化の取り組みについて (直営カフェ・通信販売)</p> <p>6 次産業化の取り組みについて (ワイナリー・協働によるぶどう栽培)</p> <p>6 次産業化の取り組みについて (障がい者雇用の促進に向けた農福連携の取り組み)</p> <p>水源の里事業の取り組みについて (限界集落の維持・再生に向けた取り組み)</p> <p>ふるさと教育の推進について (学校・地域における取り組み)</p>

鳥取県八頭町 平飼い養鶏による卵の生産・加工・販売

有限会社 ひよこカンパニーの取り組み

脱サラで養鶏会社を営む父のもとで働き、従来の養鶏のあり方に疑問を感じ始める、大規模経営を支える鶏のケージ飼は生育環境を考えると良好とは言えない、長い長いケージ飼、大規模養鶏に対する疑問から（平飼い）と云う飼い方をスタートした。

何より鶏の幸せを優先する方向、日光が差し込む開放型の鶏舎の中を思う存分 走りまわって元気で最高の卵を産む、自然のサイクルの中で野生の花、虫、動物が生命を終えても森の養分となる、牧場で出る鶏糞はゴミではなく畑の有機物肥料として重宝、地域との共生である。 経営者は好きな言葉に（夢）とあり、苦労を重ねながら現在は（直営カフェ、通信販売）など大きく夢に向かって邁進されている。

大阪府柏原市 耕作放棄地解消に向けた、地域共同によるぶどう栽培 カタシモワインフード株式会社

祖父の代から続く同ワイナリーを経営する高井社長は「地域宝のブドウ畑を残したい」と近隣の家から耕作放棄地をか借り、計 3.5 畧で栽培、かつてブドウの生産日本一を誇った河内地内でワインを醸造する老舗で「カタシモワインフード」は創業 100 年過ぎた。

目指すは美しいブドウ畑が広がるワイナリー、ワインより身近な素敵な体験が待っている。

流れが変わったのは、大阪市内から 1 時間弱という地の利に着目し、外からお客様を呼び込んだこと、更にこれほど大消費地に近いブドウ産地はないということなど利点が多く現在も賑わいの「カタシモワインフード」であった。

大阪市泉南市

「農福連携・ハートランドの障害者雇用」

コクヨグループでは（障がい）を持つことは困難なことではあるが害ではないという基本的な考えに基づき「障がい者」ではなく

「障害者」という表記を用いておられる、

設立趣旨として農業を「新しい障害者雇用の場」と考え障害者に就労の場を提供する。

農薬を使用しない水耕栽培による安全、安心、おいしい野菜栽培を主として、農業という新しい障害者雇用のビジネスモデルを構築し障害者の自立を手助けすること、水耕栽培で軟弱野菜を年 18 作

（サラダほうれん草、レタス、軟弱野菜）を障害者 15 名程度雇用、経営状況は厳しいが社会貢献であるとしている。

特例子会社では日本で最初の農業法人であると報告を受けた。

4 調査結果 又は概要

京都、綾部市役所

水源の里事業の取り組み「限界集落の維持、再生」

限界集落「水源の里」は中心市街地から10～30^{キロ}で

過疎、高齢化が進み、農業用水や道路の維持管理といった共同生活の維持が困難な状況に直面している集落を「水源の里」と位置づけ集落の振興と活性化を図る活動の取り組み。

「綾部市水源の里条例」で過疎や高齢化に悩む地域の再生を目標に、集落の人々と行政が手を結び活動している。

例、住宅の建設、改修、空き家の有効活用、農村と都市の交流の拡大、体験事業

「水源の里」の資源を活用し特産品の開発、販売により農林業を振興させ持続可能な集落づくりに努力されている。

あなたの気持ち一步前へ・水源の里サポーター募集で、
公民館の雪下ろし、水仙の植樹、田植え作業、枥の実を守るためネット張りなど活動
最後に過疎、高齢化は全国が共通に抱える課題でありこの「水源の里事業」は一例で
こうした地域が共に連携していくことが大切である。

兵庫県香美町

香美町のふるさと教育について

人口は19,148人・山あり海あり「海の幸、山の幸」名牛「但馬牛」あり、町の教育をのぞいてみました。

「ふるさとに学び 夢や志を抱きふるさと香美を大切に作るひとづくり」

「ふるさと香美」の将来を担う人材育成し、活力ある町づくりを進めるために、ふるさとのよさを生かすことのできる人材育成。

ふるさと教育応援団を活用しながら、子どもふるさと探検隊や地域での異世代間交流などを通して自然や文化・人材などについて理解する教育の場を設ける。

「ふるさと給食」山から海までの多様な自然環境は香美町の重要な教育資源である、地産地消の考えを教育に生かす、食は体力づくりの原点である。

「ふるさと教育」を進めて行くためには、地域の文化財、歴史、文化遺産などの様々な地域資源を整理することが大切である、各地で取り組まれている活動内容を情報交換し、学びの輪を広げ教育を一層深めて行きたい。

所感

議会議員研修で3日間6か所の市、町の6次産業化の取り組みについて研修しここに報告します、2日目には夜8時に宿に着くなど、それほど重要で関心のある研修であった、6か所の研修結果の所感を述べることは書面も長くなりますので渴愛しますが、今回の研修結果が北栄町に適しているか何が出来るか議会で議論を重ねて行きたいと考えています。